

武道・日本舞踊大会

山田大使挨拶（2019年6月21日（金））

皆さん、こんばんは。

日本発祥の武道のイベントが、ここブラジルにおいてこのように大規模に開催されていることに、主催者の1人として大変嬉しく思います。本イベントを企画された伯中西部空手連盟のドミンゴス師範をはじめ、ご尽力された全ての皆さんに心より敬意を表します。

武道は広く世界中に広がっていますが、ブラジルはその中でも特に盛んな国の1つであり、多くの Karate-ka、judo-ka が日々鍛錬に打ち込んでいます。また、柔道から派生し独自の発展を遂げた（ブラジリアン）柔術も大変な人気です。日本で生まれた伝統的な武道が、日本人移住者によって伯に持ち込まれ、このように大きく発展していることを大変嬉しく思っております。

皆さんご承知のように、武道は単なるマーシャルアーツではありません。日本では2012年に中学校で武道が必修化され、多くの学校が空手や柔道を取り入れて教育活動を行っています。勇気、礼儀、勤勉など、人として生きていく上で極めて重要な価値観を武道は我々に教えてくれます。

明年2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。我々はこのような絶好の機会を活かし「リオから東京へ」を合い言葉に、日伯両国のスポーツ協力を力を入れているところです。特に空手は、2020年東京オリンピックで正式種目として実施されます。これを機会に空手が伯において益々盛んになり、空手を通じて日本や日本文化に親しむブラジル人が増えることは、日伯の友好関係を更に深めることになるでしょう。

明日から始まる空手大会に参加される皆さんの健闘を祈りつつ、武道の普及が日伯関係の益々の深化につながることを祈念致します。有り難うございました。